

低夜温管理でも収量が多いスターチス新品種を育成

農業試験場暖地園芸センター

【背景とねらい】

本県のスターチスは、出荷量が全国1位の品目で日高地域を中心に産地が形成されています。近年燃油価格が高騰する中で、加温コストを削減するための低夜温管理が普及し、需要期である3月までの収量が減少することが問題となっています。そこで、低夜温管理栽培においても収量性が高い新品種を育成しました。

【研究の成果】

‘紀州ファインライラック’

がく色が淡紫色で、花房は丸味がありやや小さめです。切り花長は対照品種の‘アナブルー’や‘紀州ファインラベンダー’よりも短く、茎径もやや小さいですが、花房数、分枝数は対照品種と同程度です（表1）。年内早くから採花でき、切り花本数は対照品種の1.4~1.9倍と非常に多いです（図2）。



‘紀州ファインオーシャン’

がく色が淡青紫色で鮮やかで、花房が大きく、ボリュームがあります（図1）。切り花長は対照品種の‘アナブルー’や‘紀州ファインラベンダー’よりもやや短いですが、花房数、分枝数は対照品種に比べて少ないですが（表1）、年内早くから採花でき、切り花本数は対照品種の1.2~1.7倍と多いです（図2）。



表1 ‘紀州ファインライラック’と‘紀州ファインオーシャン’および対照品種の切り花品質

栽培年	系統・品種	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	分枝数 (本)	花房数 (個)
2016年	紀州ファインライラック	72.2	5.8	6.7	11.9
	紀州ファインオーシャン	71.6	5.3	5.2	8.2
	アナブルー	87.1	6.5	6.0	11.5
	紀州ファインブルー	84.1	6.1	6.0	10.4
2017年	紀州ファインライラック	77.9	5.9	6.7	12.5
	紀州ファインオーシャン	83.1	5.9	5.7	9.2
	アナブルー	91.1	6.6	6.5	12.8
	紀州ファインラベンダー	88.4	6.3	6.7	12.0
	紀州ファインブルー	96.3	7.4	6.3	11.2

注)2016年:9月7日に定植、切り花調査は10月31日～2017年3月16日まで 2017年:9月6日に定植、切り花調査は11月8日～2018年3月14日まで
定植から2週間株養成のため抽苔花茎を除去、冬季加温設定温度1℃で管理

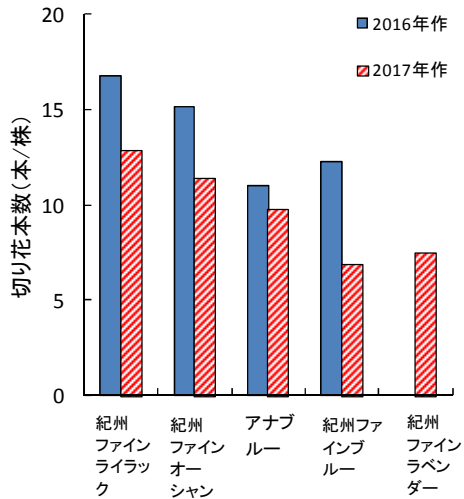


図2 ‘紀州ファインライラック’と‘紀州ファインオーシャン’および対照品種の切り花本数

注)栽培概要および調査期間は表1と同様

- ※. スターチス‘紀州ファインライラック’と‘紀州ファインオーシャン’は平成31年3月に品種登録出願し、令和元年6月に出願公表されました。
- ※. スターチスの種苗の増殖は和歌山県が許諾する種苗生産業者に限ります。
- ※. 栽培は和歌山県内の生産者に限ります。

(問い合わせ先 TEL: 0738-23-4005)